

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞貞 夫其他

宣誓供述書

供述者

山口

英

治

々 自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ヅ別紙ノ通り宣誓ヲ爲シタル上次ノ如
々 供述致シマス

一、私、山口英治ハ元陸軍中佐デアリマシテ明治四十年八月十一日生レ、現住所ハ新潟縣高田市南城町三丁目百三十四番地。昭和四年陸軍士官學校ヲ、昭和十三年陸軍大學校ヲ夫々卒業シ、爾來各種ノ任務ニ服シタル後、昭和十九年七月八日「ビルマ」方面軍參謀ニ補セラレ、昭和二十年七月十八日他ニ轉補ノ發令ガアリマシタガ同月二十日迄作戰主任參謀トシテ服務シマシタ。

二、私ハ當法廷ニ提出セラレタル「ビルマ」ニ於ケル日本軍ノ不法行爲ニ關スル證據書類存ビ證人ノ證言ノ記錄ヲ讀ミマシタ。其法廷證及ビ證言ニ就イテ私ノ知ツテナルコトヲ以下ニ述ベマス

(A) 法廷證第一五三五號A同第一五四八號Aヨリ同第一五五〇號A迄、同第一五五四號Aヨリ同第一五五八號A迄同第一五七九號ヨリ同第一五八二號A迄ノ十三法廷證ニ記載ノ事實ニ就テ。

以上ノ内法廷證第一五五七號A及同第一五五八號Aヲ除キ他ハ總テ一九四四年九月十二日木村將軍ガ「ビルマ」方面軍司令官著任時以前ノモノノ様デアリマス。而シテ法廷證第一五五七號A及同第一五五八號Aニ記載ノ「タヴオイ」抑留所ハ「ビルマ」方面軍ノ隸下タル混成第二十四旅團長ガ直接管理シシテ居リマシタガ、木村將軍著任後約二ヶ月ヲ經タ一九四四年十二月以降ハ南方總軍ノ命ニヨリ「タヴオイ」地區ハ泰方面軍司令官ノ管轄ニ移リマシタ南ノテ其以後ハ「タヴオイ」抑留所モ泰方面軍司令官ノ隸下部隊タル「タヴオイ」

4 駐屯部隊ニ依リ直接管理セラレマシタ。

(b) 法廷證第一五五三號A同第一五五九號ヨリ同第一五七八號A迄ノ二十一ノ法廷證ニ記載ノ事實、並ニ證人「ジョン・ダンスロウ・ウイリアムス」氏（昭和二十一年十二月十七日證言）及「ジョン・ケビン・ロイド」少佐（同日證言）證言セル事實ニ就テ

以上ハ泰緬鐵道ニ使用セラレタル俘虜ノ虐待ニ關スルモノノ様デアリマスガ泰緬鐵道ノ建設ハ木村將軍ガ「ビルマ」方面軍司令官ニ著任セラレル一昨年ニ既ニ完成シテ居リ且ツ此ノ鐵道ノ建設維持、運營並ニ管理ハ南方總軍直轄ノ野戰鐵道隊司令官ニヨリ行ハレタモノデアリマシテ「ビルマ」方面軍司令官ノ管轄外デアリマシタ。

(c) 法廷證第一五八四號及同第一五八五號Aニ記載ノ事實ニ就テ。以上ハ一九四五年四月カラ八月ニ亘ツテ「メルギー・キルカン」道路ノ建設ニ使用セラレタ俘虜ノ虐待ニ關スルモノノ様デアリマスガ「メルギー」地區ハ「タヴオイ」地區トトモニ南方總軍ノ命ニヨリ一九四四年十二月以降ハ泰方面軍司令官ノ管轄ニ移リマシタ。「キルカン」ハ泰國ニアリマス從ツテ本件ハ「ビルマ」方面軍司令官ノ管轄外ニ起ツタ事件デアリマス

(d) 法廷證第一五三七號Aヨリ同第一五四七號A迄、同第一五五一號Aヨリ同第一五五三號A迄及ビ同第一五八三號Aノ十五法廷證記載ノ事實ニ就テ、

以上ノ内一部ヲ除キ木村將軍ガ「ビルマ」方面軍司令官ニ在任中ニ起ツ
 タ事件ノ様デアリマス然シ乍ラ是等法廷證記載ノ事實ニ關シテハ方面軍
 司令部ハ何等知ル處ナク又勿論命令シタコトモアリマヒンデシタ。法廷
 證第一五三九號Aノ一部、同第一五四一號Aノ一部同第一五四二號A、
 同第一五四三號A、及同第一五四五號A、及同第一五四六號A、記載ノ
 事件ハ發生年月不詳デアリマスカラ之以上述ベマヒン。

三 木村方面軍司令官著任後ニ於ケル我軍ハ敗戦ノ連續デアリ甚ダ窮境ニア
 リマシタガ木村將軍ハ在任間終始特ニ軍紀ノ嚴正ト民心ノ把握ヲ重點ト
 シテ懸命ノ努力ヲ拂ハレ隸下ノ部長ニ對シテ凡有ユル方法ヲ以テ其徹
 底ヲ圖ラレ又各部長モ此點ニ最大ノ努力ヲ拂ヒマシタノデ隸下部隊ノ
 軍紀ハ嚴正ニ維持ヒラレ又日緬間克ク親善シテ居ツタト通信スル次第デア
 リマス

四 在「ビルマ」飛行師團、印度國民軍トノ連絡ニ任ゼル光機團、南方軍野
 戰鐵道隊、船舶輸送部隊及海軍根據地隊ハ「ビルマ」方面軍ニ對スル協
 力部隊ニシテ木村大將ノ指揮下部隊デアアリマヒンデシタ。

222 20540000

昭和二十二年（一九四七年）九月十五日

於

供 述 者 山

口

英

治

右ハ常立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同日於同所

立會人

是 恒

達

見

577 DOO2586

宣
誓
書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ

署名捺印

山
口
英
治